

ヒロシマ

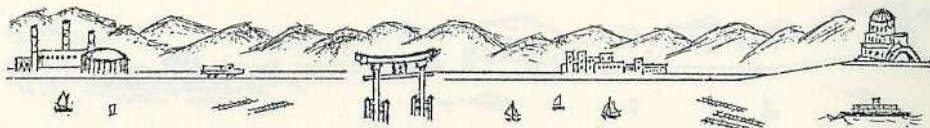
HIROSHIMA

HIROSHIMA

2007(下)

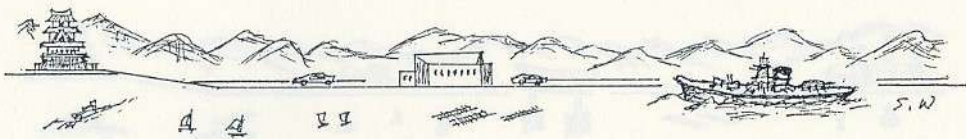


2007(下)

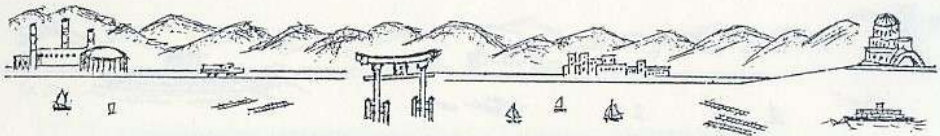


《目次》

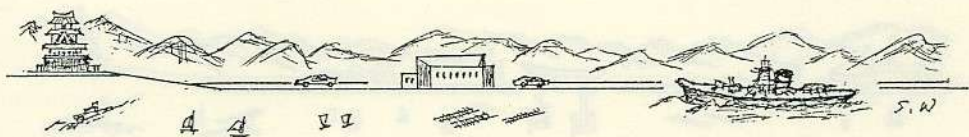
新田	和雄……インスタレーションV	1
今泉	ただし……駅のこと	2
亀井	一夫……遊び心で生きる	3
渡辺	玲子……少女小説作家・佐伯千秋のこと	4
赤松	和彦……巡礼の道	5
熊田	幸子……沙羅の花	6
北川	建次……被爆遺跡の宝庫広島駅前	7
井岡	裕昭……HMR	8
前原	美穂……三社詣	9
高橋	博暢……出会い・結婚・商売・そして(1)	10
垣内	稔……今、残すべき遺産・口承文芸Ⅱ口承伝承その(3)	11
大和喜久男	……「笑い」の研究(6)	12
中尾	建三……はんなりおぼろ	13
袁	葉……一見如故	14
高橋	昭博……「ヒロシマ」を継承する若者たち(その三の上)——小暮康久君	15
竹田	朝子……猫の寝顔	16
松本	明雄……お伊勢さん	17
梶川	威子……並木道	18
森田	昌樹……川べりのランニング	19
川村	毅……挨拶の苦手な日本人	20
川畑	蘇楽……私のロハス感	21
田上公一郎	……梅幻寺月光の庭(その七)	22
高田	薫……月の色占い	23
原	時彦……三次の母	24
千葉	佳子……私の被爆記(三)	25
山根	興哉……思うままの創造	26
新本	稔……宮古島の風	27



阿部 律子	言葉の力「父に想うこと」	28
今田 進	堤岩里事件(一)近くて遠い国、韓国	29
正木 嗣鵬	中国渡来人の書(3)黄檗三筆の師系	30
小野 文孝	父のこと	31
永田 稔衛	奇想	32
高橋 昭三	十三夜	33
小笠 邦久	そば考(その十)	34
上田由美子	相似形の母娘	35
豊嶋 睦	知覧特攻平和会館に立ち寄って	36
木村 進匡	鳥インフルエンザですか	37
中下 稔子	でで虫よ	38
長谷川是求	発明と発見	39
東堂 光教	アトラス	40
土井田 泰	都会の音	41
有地 成光	年賀状	42
夏目 康文	楊名時先生を懐う	43
伊勢 眞介	我が街 広島(一)	44
田中 登	私の原爆体験	45
三上寿磨子	痛い痛いで日が暮れて	46
谷本 直隆	早春の極楽寺山	47
大下 徳也	近況報告	48
石井 康隆	メガネ	49
松村 誠	ウニの思い出	50
吉村 馬洗	方愚節	51
片山 義弘	日本現代詩人・田中亀太郎氏の老後の詩	52
舛井 寛一	再び「大和」慰霊の旅へ(一)	53
保手濱神龍	巖島に賽す	54
田中 康夫	旅ゆけば(6) 周防大島波静か	55
築島 由枝	息子と私の卒業式	56



川堀	耕平	托雁	85
新川	貞之	宮島の大鳥居	84
小杉	蔦雄	阿修羅となった孝子	83
井上	哲一	式年遷宮	82
片柳	寛	借曲 夕鶴	81
佐藤	蘭花	ゆめの里	80
難波	紘二	飯島宗一先生(その二)	79
佐藤伊佐雄		瀬戸内と中国山地の美術館	78
山本	節子	白雲	77
城仙泰一郎		わたしはがんでしにたい	76
村上	通明	夏めくや	75
佐々木	健	お酒はぬるめのカンがいい	74
小島	哲	「エリート」(上級公務員)について考える	73
吉中	康磨	その一言で相手を	72
平塩	清種	母の箴言／振り子の幅	71
世木田	寛子	余韻	70
花井	隆爾	御料牧場と秋山徳蔵	69
吉村	良哉	約 束	68
亀井	章	遺産を護り、平和を守る	67
土屋	孝子	母のこと(その九)お駄賃	66
井尾	義信	郷愁「だんご汁」	65
菅原	京子	乗馬服	64
寺尾	邦昭	自転車のかぎ	63
大谷	育平	別れの習俗	62
板倉	昭子	武士のなさけ	61
寛	義之	題名は記号か	60
平岡	豊恵	「江戸しぐさ」に学ぶ	59
天瀬	裕康	ひろしま巡礼と文学館	58
足立	柳子	深入山へ	57



久村 敬夫……………四十八年ぶりのクラス会……………86
 由田千鶴子……………書寫山圓教寺……………87
 務中 昌己……………お酒飲む人飲まぬ人……………88
 碓井 静照……………日本古代史を思う(17)……………89

広島ペンクラブ規約……………90
 編集人記……………92

○広島経済大学……………94
 ○長崎病院……………95
 ○木村神経科内科……………96
 ○山陽吟社……………97
 ○横田安楽堂……………97
 ○高陽ニータウン病院……………94
 ○梶川病院……………95
 ○川堀病院……………96
 ○西日本日中旅行社……………97
 ○創生俳句会……………94
 ○新本クリニック……………96
 ○天瀬 裕康……………96
 ○平安堂梅坪……………97

■表紙題字／大木 茂 ■目次カット／渡辺 晋 ■扉／川堀 耕平

あけび

小泉 清 (こいずみきよし) 一九〇〇〜一九六二

35×25 由田千鶴子さん蔵

紙 作家小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)、小泉節子の三男として東京都市ヶ
 谷富久町で生まれる。早稲田中学卒、東美中退。ピリヤード場を経営しなが
 ら制作活動。里見勝蔵の勧めで新興美術展に出品、読売賞受賞。一燈美術賞。
 国画会会員。一九六二年自殺。奔放なタッチで原色を厚く塗り込めた独特の
 作風。藤田嗣治、梅原龍三郎らが絶賛し、絵画コレクターの人氣が高い。